

## 令和元年度「地域発 元気づくり支援金」事業実施結果(北信地域)

整理番号	主事業区分	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	総事業費 (円)	うち 支援金額 (円)	講評
1	その他(産業の振興及び雇用の拡大)	ソフト・ハード	株式会社アルビスファーム信州なかの	農福連携による就労継続支援A型事業	中野市において、障がい者就労継続支援A型事業所が農福連携事業を行い、地域の農業従事者と連携することにより、遊休荒廃地を活用し需要の高い農産物を栽培、販売する。 また、農産物を運搬するためのトラックを購入し、農業用ハウスを整備した。 ①農業サポーター委託、教育研修費、②運搬用中型トラック、農業用ハウス	11,671,042	6,000,000	・農地の拡大や生産量の向上のため、継続して農業サポーター等から技術指導を受け、障がい者の就労支援を行った。また、収穫した農産物を販売する地域イベントに参加するなど、障がい者の社会参加や農福連携に対する認知度向上も図られた。 ・今後も関係者と連携しサポートを得ながら、農作物の収量の増加を図り、安定した事業所の運営と障がい者の所得向上につながるよう期待する。
2	保健、医療、福祉の充実	ソフト・ハード	信州Gプロジェクト	子供の居場所作り事業	子どもの居場所・出番を提供し、子どもが楽しめるフェスを開催した。フェスでは信州プロレス等の企画のほか、こどもカフェを実施している団体等と連携してフードドライブを実施し、協力者を増やし必要性を発信した。また、現在こどもカフェや交流フリースペースとしている「だがしやG」の施設環境を整えるため、エアコンの設置等を行った。 ①信州プロレス出演料、チラシ等広告宣伝費、水鉄砲等開催費用、②エアコンの設置及び照明器具の更新	1,892,766	1,465,000	・子どもたちが思い出を作るフェス(縁日)を開催し、その中でこどもカフェやフードドライブを地域の団体と連携して実施し、ひとり親のサポート等につなげた。また「だがしやG」の環境整備を行い、子どもや高齢者の地域の居場所として、また、地域活動を行う団体の活動の場として、さらなる利用が進むことを期待する。
3	農業の振興と農山村づくり	ソフト	一般社団法人日本きのこマイスター協会	信州中野きのこ生産の歴史と未来	中野市の基幹産業であるきのこ産業の生産価格低迷や季節による需要と供給のアンバランスなど現状の課題について、解決の糸口を見出すため、きのこ生産や加工品開発を過去の歴史から学ぶ企画展を開催した。また、子どもを対象にきのこの魅力を学ぶワークショップを開催し、きのこ産業の振興を図った。 ①企画展パネル、看板印刷、展示用加工品他開催費用、配布資料印刷、ワークショップ講師謝金等、ワークショップ用消耗品、広告料他実施費用	2,066,228	1,538,000	・きのこの生産や加工品開発の歴史について、実際に使われた機械や商品を企画展で展示するとともに、親子で参加するワークショップを開催し、子どもから大人まで地域の特産物であるきのこについて、わかりやすく学ぶ機会を提供し関心を深めた。また、ワークショップではキッズきのこマイスターを認定し、子どもたちがきのこについて、継続して関心が持てるよう工夫して事業を実施した。
4	教育、文化の振興	ソフト	信州なかのローズフェスタ合唱団	音楽によるふるさとづくり(「ふるさとの四季」を故郷のばら公園でみんなで歌おう)	毎年6月に行われている信州なかのバラまつりでのローズコンサートにおいて、中野市出身の中山晋平や高野辰之が作詞・作曲した曲が多く盛り込まれる組曲「ふるさとの四季」を、参加者を募って合唱し、地域の歴史や文化を学ぶ機会を提供した。また「故郷のふるさと」として観光PRしている中野市で「ふるさとの四季」を参加者を募って行うことで、観光地としてのイメージアップを図り観光PRを行った。 ①講師謝金、エレクトーン借上げ、チラシ印刷、シャボン玉セット	841,680	673,000	・近隣の住民や合唱団等から広く歌い手を募集し、専門家による事前練習を受け、地域住民に中野市の歴史や文化の発信を行った。また当日は、会場の信州なかのバラまつりに訪れる観光客も合唱に参加してもらえよう、歌にちなんでシャボン玉を配布して一緒に飛ばすという趣向を凝らし、観光地としての魅力のPRにもつながった。

整理番号	主事業区分	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	総事業費 (円)	うち 支援金額 (円)	講評
5	その他地域の 元気を生み出す 地域づくり	ソフト	Sakefeti (サケ フェチ)	うまいもと地酒 信州SOUL2019 ファミリーよ集 え！！	中野市及び近隣市町村の飲食店、酒販店等の若手経営者が協力して、北信地域のおいしい食材やお酒の魅力を、それぞれの業種の特徴を生かしながら発信するイベントを実施してきた中で、課題であった子ども連れの親子でも参加しやすいイベントとするため、子ども向けイベントを事業内容に加えて開催し、さらに地域の魅力を発信した。 ①会場設営費等、広告費等、オリジナルおちょこ、Tシャツ、試飲酒	2,309,811	1,469,000	・酒のイベントではあるものの、子どもたちに節度をもってお酒を呑むことについて理解してもらうことを目的の1つとして、親子で地域の酒と食を楽しむイベントとして多くの来場者を得た。また、参加した酒造や飲食店がこのイベントのための特別メニューを提供し、地元の商品や農産物等のPRも図られた。
6	その他(産業 の振興及び雇 用の拡大)	ソフト	信州中野おごっそ フェア実行委員会	信州中野おごっそ フェア	中野市防災広場において、中野市を中心とした信越自然郷の農産物の魅力を発信するため出店者を募り販売した。H31年は、H30年の開催で効果のあったSNSでの情報発信を、さらに強力に行うほか、地域住民の関心も高める内容とし来場者の増加につなげた。また、ボランティアに広く携わってもらうことで、地域住民と協力して地域の活性化につなげるイベントとした。 ①会場設営、広報、交通警備・シャトルバス等、イベント・企画、その他運営費用	21,712,810	4,400,000	・開催直前に令和元年東日本台風災害に見舞われ開催も危ぶまれたが、出展者等の理解や協力を得ながらほぼ予定どおり開催し、地元の事業者や住民の大きな励みとなった。また、当初からの目的である地域の農産物や魅力ある商品のPRのためSNS等での広報も行い、広い地域からの誘客につなげており、地域のイベントとして定着してきている。
7	地域協働の推 進	ハード	中野市	手づくり農村支援 事業	農村地域における高齢化や後継者不足による農作業等の負担軽減と効率化を図るため、地域住民が協働して行う農道・水路の補修・整備の直接施工や維持管理活動に必要な材料支給・重機の提供等の支援を行った。 ②原材料支給 農道舗装6地区、水路改修9地区	10,712,994	5,355,000	・高齢化が進む農村地域での作業労力の負担軽減が図られたとともに、農家や住民が自ら協働作業を行うことにより、自立意識の涵養と愛着を持った維持管理につながった。
8	地域協働の推 進	ハード	飯山市	協働のむらづくり 事業	住民と市が協働して農林業用施設を整備することにより、事業費を圧縮、施設の維持管理作業を軽減し、農林業生産の効率を高めた。また、協働作業を通じて住民同士の交流、施設管理意識の向上を図った。 支援金対象：農林道舗装等13箇所、水路改修14箇所 ②原材料購入費	6,469,145	3,860,000	・地元の住民が自ら施工計画をたて、作業を行う主体的な取組となっている。地元負担金もあり、地域住民が互いに協力して作業を行い、連帯と活性化につながっている。
9	その他地域の 元気を生み出す 地域づくり	ソフト	飯山市	雪エネルギー推進 事業	H30年度に実証実験を行い、雪室としてある程度の利用見込みが見ついた施設を使い、事業者主体の雪室ブランドを構築していくため、先進地である新潟県の事例を事業者等が参加して視察を行った。また、雪室貯蔵品のエビデンス調査、PRのためのプロモーションビデオ等を作成したほか、雪室内の物品管理用の備品購入、温度や湿度環境を保つための施設修繕を行った。 ①エビデンス調査、PR用パンフレット等の作成、商品管理用備品購入、雪室の防カビ塗装	871,376	697,000	・雪中貯蔵による農産物の高付加価値化等に関心のある農家等とともに先進地を視察し、雪室の活用やブランドづくりの機運を高めた。 ・雪室内の貯蔵環境の整備も進められており、地域や関係者等の連携を進めながら、さらなる利用者や貯蔵品等の増を期待したい。

整理番号	主事業区分	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	総事業費 (円)	うち 支援金額 (円)	講評
10	特色ある観光地づくり	ソフト	一般社団法人信州 いいやま観光局	信越自然郷におけるガストロノミー・ツーリズム推進事業	信越9市町村広域観光連携会議がH30年度に立ち上げたワーキンググループでの検討や実施結果を踏まえ、より効果が高まる方法で地域の食文化や特徴のある食材を活かした「ガストロノミー・ツーリズム」の基盤を構築・推進し、競争力を持った地域を確立していくための事業を行った。 ①料理教室の開催(講師謝礼・チラシ等)、食材収穫体験ツアー(インストラクター謝金、バス借上げ)、おごっつおガーデン(調理人謝金・チラシ、什器購入等)、講演会、食材フェアメニュー開発等、先進地視察	2,486,969	1,909,000	・昨年に引き続き、事業者や高校生が参加して信越自然郷地域の食材の価値を見直す料理教室や、食と観光に関する専門家による講演会を開催し、観光や飲食店等の事業者のガストロノミーの取り組みへの機運をさらに高めた。今後は、先進地の取組事例などを参考に、実際のサービスへの活用方法などの検討を期待する。
11	特色ある観光地づくり	ソフト	千曲川・高社山 SEA TO SUMMIT実行委員会	千曲川・高社山SEA TO SUMMIT事業	カヌー・自転車・登山の3種類のアクティビティをつないで旅を楽しむ「SEA TO SUMMIT」をH29年に初めて開催し、全国12箇所の中からSEA TO SUMMITアワード2017を受賞。H30年からは木島平村も主催者に加わり、旅行商品としての販売やボランティアの参画も増加し認知度が上がった。H31年は、地域住民向けアクティビティ講習会を実施し、グリーン期の旅プランとしての受入れのための体制づくりを進めた。 ①運営費、設備費、広報費、式典等、人材育成費等	8,252,618	1,324,000	・令和元年東日本台風災害で会場の変更等を余儀なくされたが、地元住民や関係者の理解と協力を得ながら無事に大会が終了できた。また、昨年に引き続き、同日開催された「おごっつフェア」との連携により、地域一体での取り組みとなった。 ・今後は、これまでの経験を生かして、独自性をもった開催や財源確保などに取り組み、継続して開催されることを期待する。
12	特色ある観光地づくり	ソフト・ハード	信越9市町村広域 連携会議	信越自然郷”ふるさと”プロジェクト	8年目を迎えた信越9市町村による広域観光連携「信越自然郷」の取組み。インバウンドの増加やグリーンシーズンの来訪者に対応するため、H30年に立ち上げたワーキンググループの検討結果を踏まえ、e-BIKEの導入、デジタルサイネージの導入を実施し、観光客のニーズに応えるほか、地域一体での情報発信等を行った。 ①e-BIKEのリース等、②デジタルサイネージの設置	2,384,309	1,846,000	・e-BIKEの導入は、注目が高い先進的な取り組みである。今年度は、台風災害による観光客の減などで活用状況が低迷したため、信越9市町村が連携し地域一体で有効活用が図られるよう検討を期待する。また、デジタルサイネージについても、導入時期が年度末近くであったため、今後の積極的な活用を期待する。
13	特色ある観光地づくり	ソフト	NPO法人信越トレイルクラブ	信越トレイル延伸に伴う広域観光推進事業	信越トレイルは、全線開通から10周年を迎え、もっと長い距離を歩きたいという要望などから、苗場山まで全長を伸ばす(延伸)。その延伸で更新が必要となる案内物品等を作成する(2年計画で進める)。また、トレイルの維持管理を利用者とともに進めるための協力を呼びかけるため、寄付をした者に対する返礼用のタグ及び周知用の看板を作成した。 ①ホームページ更新、案内パンフレット、マップ、ガイドブックの版下作成、整備協力金返礼タグ及び呼びかけ看板製作	2,900,220	2,256,000	・信越トレイルの延伸に合わせ、利用者により安全でわかりやすい情報提供を行うため、これまでの課題等を検討し地域の情報を追加して、情報発信ツールの改訂を進めている。 ・トレイルの維持と環境保全に取り組み整備協力金の返礼タグのシステムは、さらなる賛同者や協力金が得られるとともに、来訪者の増加につながる取り組みの検討を期待する。
14	教育、文化の振興	ソフト	特定非営利活動法人 ぱーむぼいす	若者が地域に自分の出番を創る製革学習	不登校やひきこもりなど社会生活に困難を有する地域の子ども・若者が、現状、処分されるだけの獣の皮を使い、後継者のいない製革技術を学ぶための講座を実施した。また、出来上がった革を使って製品を作り、販売のためのブランディングも学び、子ども・若者の居場所や出番を創出した。 ①講師、皮提供謝礼等、事業スキーム組立相談料、革製品デザイン等、冷凍庫・洗濯機、作業用道具等、モニタリング	834,291	667,000	・引きこもりや不登校といった課題を抱えた子どもたちが、製革学習を通じて自らの居場所や出番を見出す機会を創出し、社会参加につなげている。 ・廃棄されている皮の活用等に地元住民の協力を得て、有害鳥獣対策にも一役買いながら事業を実施している。今後は製作した革を使用した商品開発も期待される。

整理番号	主事業区分	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	総事業費 (円)	うち 支援金額 (円)	講評
15	安全・安心な地域づくり	ハード	(飯山市)藤沢区	雪国でも安心して生活できる克雪集落づくり事業	集落内の特に道幅が狭く、急勾配で機械除雪が困難な道路で、凍結により車の事故や転倒によるけが人が出ている路線について、自然流水を活用した路面消雪設備を施工した。専門の事業者でなければ施工できないものは事業者にお問い合わせしたが、その他は住民自らが施工した。 ②アスファルト舗装、散水管設備、水路接続工、運搬費等	9,290,600	6,000,000	・狭小や急勾配で冬期間に通常の機械での除雪が実施できない集落内の道路について、地域の豊富な水を活用した自然流水での消雪方法を、住民が自ら工法の検討と作業を、事業者の指導を受けながら実施した。 ・住民自ら地域の課題解決に取り組み、安全・安心な暮らしにつながった。
16	農業の振興と農山村づくり	ソフト・ハード	飯山そば振興研究会	飯山のそばによる元気な地域づくり事業(第2弾)	飯山市内の小規模なそば生産者団体で組織する当研究会が、H30年に支援金によりコンバインを導入し、適期刈取りと情報交換による栽培技術向上を図った。H31年は、自ら栽培したそばの付加価値向上に向け、製麺業許可取得のための施設を設置し、雪室熟成そばのブランド化等に取り組んだ。また、そばの打ち手を育成するための講習会を開催し、いよいよそばの振興を図った。 ①冷凍庫、打ち手育成講習会用物品等、情報発信、PR活動、 ②冷蔵庫、真空包装器、コンテナハウス設置	1,765,999	1,344,000	・6次産業化に向けて、生そば製造のための拠点の整備や、将来の担い手となる打ち手の育成を行った。また、単位あたり収穫量も増え、雪室を活用して付加価値を上げたそばの販売に向けた体制づくりが進んだ。 ・今後は、地域での連携を進め、生産体制の強化と販路拡大等に取り組む。飯山そばの振興が進むよう期待する。
17	特色ある観光地づくり	ソフト	志賀高原観光協会	大学・各種学校との志賀高原連携事業「学生による志賀高原観光振興プロジェクト」	近年の若者のスキー離れ等から、若者の志賀高原の認知度は低い傾向にある。H30年に支援金を活用して学生による志賀高原の遊休店舗を活用したカフェ等の店舗運営の場を提供しメニュー開発などを実施した。H31年は、新たにガストロノミーを学ぶ講習会、地域産食材によるメニュー開発PRを行った。 ①学生滞在・交通費、講師謝礼・交通費、引率者交通費等、店舗装飾1店舗分、資料印刷、バス借上、チラシ等広報費、HP制作、上記手配一式手数料	3,600,680	1,702,000	・学生が志賀高原の観光等について学び、地域の方々の協力を得ながら、主体的に店舗の装飾、運営等を行った。将来の観光人材の確保につながるとともに、学生によるSNSでの情報発信等で観光客の増加に寄与した。
18	環境保全、景観形成	ソフト	山ノ内町雪室利活用協議会	雪室スノーパル利活用促進事業	山ノ内町須賀川地区に設置した雪室「スノーパル」の認知度を高め、利活用を推進するための事業を実施する。H31年は、より効果的な方法での雪室コンビニの実施と、町内の宿泊業関係者の協力を得て、実際に雪室貯蔵りんごを宿泊客に食べてもらうモニター調査を実施し、雪室商品の販路拡大及び新たなスノーパル利用者の確保につなげた。 ①雪室コンビニ開催費、モニター用りんご	862,241	674,000	・雪室コンビニは、雪中貯蔵りんごの購入を楽しみにする者がいるなど、PRイベントとして定着してきている。 ・モニター調査は、雪室や雪室商品への理解を深める良い機会となった。引き続き経費面等の課題やブランド化についての研究等に取り組む。雪室の利活用が進むことが期待される。
19	中止							
20	環境保全、景観形成	ソフト・ハード	山ノ内町	上信越高原国立公園・志賀高原指定70周年記念事業	昭和24年に志賀高原が上信越高原国立公園に指定されてから70周年を迎えることを記念して、当国立公園の国内外への認知度を高め観光の活性化や地域の活性化につなげ、町の観光PRと誘客を強化するため、遊歩道環境整備を行うとともに、東京で開催された国立公園フェアに出展し、観光PRを行った。 ①PRイベント交通費、チラシ作成、物品運搬、②遊歩道看板設置	1,478,600	800,000	・近年、志賀高原エリアでは廃屋ホテル等を撤去した跡地を、地域の活性化につなげていく機運が高まっており、このたびの志賀高原の国立公園指定70周年を契機としたPRや環境整備等により、さらなる機運醸成と志賀高原の認知度向上が図られた。

整理番号	主事業区分	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	総事業費 (円)	うち 支援金額 (円)	講評
21	地域協働の推進	ハード	山ノ内町	地域協働で農業に活力を与えるための施設整備	高齢化等により農業経営の先行きが不安定な中、地域住民が協働で農道等の整備を行うことにより地域のつながりを深め、農業に活力を与え、農村全体が元気になることを目指した。 ②農業用水路縞鋼板蓋の設置2地区 原材料費、広報表示板	1,866,240	933,000	・非常に労力を要する作業等を、地域住民が協働して取り組み、費用面だけでなく管理面での効率化や安全性が向上し、農作業の面でもよい効果が表れている。
22	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト	特定非営利活動法人地域創生研究所あつまれむらびと	地域課題解決のための人材育成を目指す学び企画	H30年に支援金を活用して完成した「むらびとサロン」で実施した講演会で、参加者から出た課題やアイデアについて、実際に資金調達やプロジェクト立ち上げの方法、特産品の開発などに取り組む専門家から学ぶ講義やワークショップを開催した。自主・自立的な企画の立ち上げ、地域課題に主体的に向かう人材の育成及び持続可能な地域の創出を図った。 ①タブロイド制作、チラシ印刷等、講師謝金、授業コーディネート謝金、講師交通費、教材費等	1,104,824	818,000	・実際に地域の課題解決に取り組む専門家等から学ぶ機会を提供し、地域住民が様々な視点から地域課題を解決する手法を学んだ。 ・今後は、学んだことを生かした活動プランの発表や、さらに実際の活動につながる取り組みを期待したい。
23	農業の振興と農山村づくり	ソフト	木島平村	木島平米PR・「WRA GOLD 10」推進事業	木島平米は、「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」でH30年度まで10年連続で全ての部門において金賞を受賞した。この長年の成績が評価され、H31年度の同コンクールで「国際総合部門」金賞を受賞すると、全国で2番目(県内初)となるWRA (World Rice Awards) GOLD10の称号が与えられる。この称号の取得を目指し、さらなる品質向上と活躍を全国に強気に発信しブランド化を目指した。 ①コンクール参加交通費等、PR用チラシ・ノベルティ等、PRイベント用消耗品等、PRイベント交通費、商談会負担金等	1,876,691	828,000	・「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」でH21年から10年連続で金賞を受賞した実績により、木島平米のPRを積極的に実施した。 ・今後は、賞の受賞を目指すとともに、PRを実施する地域や場所の拡大、賞を付加価値とした販路拡大等を検討して、さらなるブランド化につながる取り組みを期待する。
24	特色ある観光地づくり	ソフト	野沢温泉源泉かけ流しの会	温泉ORP講習会及び各施設でのORP検査実施事業	野沢温泉村は、自治体名に「温泉」が付く唯一の村であり、生活文化に温泉が欠かせないものとして根付いている。その「売り」である温泉の効能等について科学的な意味や知識を学び、自分たちの温泉の特徴やかけ流しの有意性を知り、野沢温泉を訪れるお客様に紹介できるようにして、温泉を活かした観光地づくり、地域発展を目指した。 ①講師謝礼、講師交通・宿泊費、勉強会・実験サポート謝礼、実験器具レンタル、チラシ、資料、ORP検査、検査技師交通・宿泊費	1,768,620	1,299,000	・村の資源である「温泉」の特に「源泉かけ流し」に注目し、その特徴や優位性等を学ぶ機会を村民等に提供し、地域全体で観光客の受け入れやもてなしを行う機運づくりの一助となった。 ・ORP検査を実施した各施設で検査結果等を公表し、野沢温泉村の「温泉」の魅力発信と誘客につなげている。

整理番号	主事業区分	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	総事業費 (円)	うち 支援金額 (円)	講評
25	特色ある観光地づくり	ソフト	Nozawa Green Fes 実行委員会	Nozawa Green Fes 2019	野沢温泉村は、冬は多くの外国人観光客などで賑わいを見せるが、グリーンシーズンの集客は課題であるため、H30年に支援金を活用して、ビールと食と自然をテーマにしたGreen Fesを開催した。H31年は引き続き開催しイベントとしての定着を図り、入場者数の倍増を見込む。野沢温泉のグリーンシーズンをPRし、宿泊につながるイベントとすることで、宿泊客の増加など地域経済への貢献を目指した。 ①イベント運営費、オリジナルグラス、スタッフTシャツ等、海外ブルワリー謝礼等、会場使用料Web、チラシ、広告宣伝費、冷蔵庫等レンタル	3,076,304	1,832,000	・グリーン期にビールや食を通じて地域の魅力をPRするイベントを開催し、スキー客等とは異なる客層、誘客につなげている。 ・入場者数、出店者数は増加しているが、係る経費も大きいため、費用対効果の検討、自己財源で自立した事業を実施する運営方法の検討を期待する。
26	地域協働の推進	ハード	野沢温泉村	手づくり農道路盤整備等事業	農地・林地の荒廃を防ぐため、地元住民が互いに協力し必要な農道舗装等を行い、農作業の効率化と生産意欲の向上を図った。 ②原材料支給 農林道2か所、水路1か所	794,448	529,000	・農林業従事者の高齢化や後継者不足等の状況で、農道等の整備により農林作業時の安全な通行確保と利便性が向上した。また、住民が自ら整備することで自立意識の醸成にもつながっている。
27	特色ある観光地づくり	ソフト・ハード	栄村秋山郷観光協会	森宮野原駅周辺にぎやか創出事業	栄村は、H23年の大震災以降、観光客の減少が続いており、村内の観光施設等では観光客の受入れ環境の整備が課題となっている。このため、森宮野原駅周辺の住民や団体と協働して、駅周辺の環境・観光施設整備等に取組み、訪れた方々に”また来たい”と思ってもらえるようにして誘客の増加につなげる。 ①散歩道整備、駅周辺への植栽、コンテナハウスレンタル、観光案内用QRコード取得、テレビモニター、サイクルステーション看板設置、②観光案内看板設置	1,317,299	966,000	・地域住民等が協力して森宮野原駅裏側の遊歩道の整備や、JRの駅から道の駅までの道路等周辺に季節の花を植え環境整備を行った。駅周辺の観光案内等の整備も進んでおり、地域住民が行う環境整備と相まって、森宮野原駅を利用する観光客等の増加に期待したい。 ・レンタサイクルについては、信越9市町村等との連携により、地域一体での有効活用を期待する。
28	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト	無茶フェス栄村大会実行委員会	栄村農業体験及び農産物宣伝販売促進事業	H23年の大震災で甚大な被害を受けた栄村は、復興に向けて様々な取組みを行っているが、人口減少や地域経済の不振など中々明るい兆しが見えない。そのため、村の観光大使である信州プロレスの協力を得て、田植えや稲刈りを一緒に行う農業体験イベントや集客力のある無茶フェスを開催し、会場に訪れる多くの者に栄村の農産物を広くPRし、農業の振興及び交流人口の拡大を図った。 ①イベント開催料、のぼり旗、PRカード作成等	1,898,901	1,519,000	・知名度のある団体の協力を得て、栄村の農業や農産物をPRするイベントを実施し、栄村を訪れる者の拡大と増加につなげ、村内施設での宿泊や売上増にも寄与した。 ・農業体験イベントは、今後も地域の団体等と協力、連携して、継続して実施されることを期待する。
29	地域協働の推進	ハード	栄村	農地等国土保全事業	農業従事者の高齢化が進む中、農業用施設の維持管理作業の軽減を図るため、集落等の要望により改修が必要な農道及び用排水路等について、村が原材料を支給した。 ②原材料支給 農道舗装等1箇所、水路等改修6箇所	2,144,176	1,215,000	・農業従事者の高齢化が進み、共同で維持管理する用排水路や農道等の整備が困難になる中、整備に必要な原材料を村が支援し維持管理の軽減につなげた。 ・受益者分担金があることで、事業規模（必要性、優先度）を住民自らが判断するため、事業後の利用度や満足度が高い。

全29事業（申請取下げ事業1件を含めない）